

令和5年度 重点目標についての学校評価  
(内部評価及び外部関係者評価)

松江市立皆美が丘女子高等学校

| 重点目標   | 分掌・学年会    | 各部・学年会の重点目標          | 内 容                                | 教員評価 |     | 昨年度比較 |   | 保護者評価 |     | 昨年度比較 |   | 生徒評価 |     | 昨年度比較 |   | 概評(○)と改善策(○)  | 肯定的評価の割合(%) | 総合評価(※) | 昨年度肯定的評価の割合(%) | 昨年度総合評価(※) | 学校関係者意見  |
|--|-----------|----------------------|------------------------------------|------|-----|-------|---|-------|-----|-------|---|------|-----|-------|---|---|-------------|---------|----------------|------------|--|
|  |           |                      |                                    | 3.9  | 75% | 72%   | — | 4.0   | 64% | 62%   | — | 4.4  | 85% | 77%   | ○ |   |             |         |                |            |  |
| 1<br>学<br>力<br>の<br>向<br>上                     | 教務部       | 授業指導の改善工夫            | 考える授業、自分の考えを表現する授業、互いに学び合う授業の展開    | 3.9  | 75% | 72%   | — | 4.0   | 64% | 62%   | — | 4.4  | 85% | 77%   | ○ | 「公開授業週間」を年間2回実施したが、全員が参観するという目標は達成できなかった。<br>○さらなる授業改善を目指して、教科で授業の振り返りを実施し、一人ひとりが研修できるように呼び掛けたい。  | 75%         | A       | 70%            | B          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の評価が高く、先生方の努力があったのではないと思う。</li> <li>・1年生が満足感を持って授業に望んでいるのではないかと感じた。</li> <li>・教員数(先生方の働き方)の問題もあるが、学力向上には少人数授業等の工夫も必要であると思う。</li> </ul>   |
|  | 1年学年会     | 学習習慣の確立と基礎学力の養成      | 家庭学習の習慣化と基礎学力定着のための指導              | 3.8  | 61% | 62%   | — | 3.9   | 66% | 71%   | ○ | 4.3  | 87% | 74%   | ◎ | ・授業へ向かう姿勢は概ね良好であったが、家庭学習習慣の確立に向けての指導を体系的に行うことができなかった。<br>○小中の学習事項のとりこぼしを補っていくことも含め、長期的なくせめて高校3年間を見通した学習の展望を示すなどして、自立した学習者を養成できるよう工夫が必要。   | 71%         | B       | 69%            | B          |  |
|  | 2年学年会     | 基礎学力の向上と定着           | 授業・試験のための予習・復習と課題等の確実な提出           | 4.0  | 85% | 58%   | ◎ | 3.9   | 73% | 76%   | — | 4.4  | 84% | 88%   | — | ・授業へ向かう姿勢には個人差が大きい。課題提出や試験を含めた学習態度育成に向けた指導にはエネルギーを費やしたが、上位層への指導が十分であったとはいえない。<br>○進路決定に向けて各自の目標を描かせると同時に、それに向けての個々に必要な学習をしっかり支援できる体制づくりが必要。   | 81%         | A       | 74%            | B          |  |
|  | 3年学年会     | 学習習慣の確立と進路目標の達成と進路保障 | 主体的な学習活動への支援                       | 3.8  | 76% | 73%   | — | 4.2   | 82% | 93%   | △ | 4.6  | 93% | 91%   | — | ・進路実現に向けて、それぞれに目標を設定し、達成に向けて粘り強く努力し、自らの進路を切り開いた生徒が多く見られた。一方で、進路決定後に学習意欲が低下する生徒も見られた。<br>○卒業後に求められる力を実感でき、それらを身につけるために努力を継続できる力の育成。  | 84%         | A       | 86%            | A          |  |
| 2<br>キ<br>ャ<br>リ<br>ア<br>教<br>育<br>の<br>充<br>実 | キャリア教育部   | 一人一人の特性と希望を生かした進路の実現 | キャリア教育の実践                          | 4.2  | 89% | 61%   | ◎ | 4.1   | 76% | 72%   | — | 4.5  | 90% | 85%   | ○ | ・昨年度の数値と比較すると向上しているところが見取れる。昨年度の教員、保護者、生徒の評価はそれぞれ、61%、72%、85%。このことから進路に直結する部分に対する指導は十分に行われていると考える。<br>○実施初年度であった「2年生エリア別校外学習」「3年生地域貢献活動」の反省を踏まえ、また「まつえ学」との連携および各エリアとの連携を深めて、効率的な指導を行いたい。  | 85%         | A       | 73%            | B          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の実践と進路実現に必要な学力・スキルの向上の評価を比べると、キャリア教育の実践の方が肯定的評価となっている。進路実現に必要な学力・スキルの向上は教員・保護者・生徒間でも差があり、昨年度比較においても全ての数値が下がっており、色々な面でギャップがあると感じた。</li> <li>・学年部の諸活動の参加が高い数値となっているのはありがたいこと。</li> <li>・3年学年部の個に応じた進路保障の生徒評価が98%となっており、この数値が高いことが素晴らしい。生徒は本校で満足して卒業できたと考えてよいのではないかと。先生方がよく頑張っておられるという表れではないか。</li> </ul> |
|  |           |                      | 進路実現に必要な学力・スキルの向上                  | 3.6  | 55% | 69%   | △ | 4.0   | 67% | 77%   | △ | 4.1  | 67% | 78%   | △ | ・昨年度の教員、保護者、生徒の評価はそれぞれ、69%、77%、78%。キャリア教育部として実施している企画については、昨年度から大きな変更を行っていない。進学に関しては“全入”、就職に関しては“人手不足”の時代にあたり、「特段の努力をしなくても自分の希望が達成できる」とは否めない。また各担任からは否定的な評価はいただいていない。この評価の急落の原因がどこにあるのかははっきりと見いだせないのが現状である。<br>○キャリア教育部企画の行事について、精選および他の選択肢からの選択、企画の目的の明確化、対象生徒および実施方法の修正等を行っていく。<br>○高校生時期においては広い視野で物事を見ることができず、狭い視野での考え方しかできない生徒もいることを鑑みて、全員に対して一律に指導する部分(3年生平日補習・前期、夏季補習)は残す方向で考えていきたい。<br>○キャリア教育部についてのことだけではなく、教務部、生徒部等の分掌と合同で、効果的な指導の方法について、協議の機会を設けたい。 | 63%         | B       | 75%            | A          |  |
|  | ヒューマンライツ部 | 図書館利用の増加と読書環境の充実     | 各種通信や移動図書館等による読書案内                 | 4.0  | 70% | 51%   | ◎ | 3.6   | 44% | 46%   | — | 4.0  | 66% | 55%   | ◎ | ・図書委員会「図書館だより」、司書通信「金の壺」は計画通り発行できた。<br>・国語科や学年会と連携し、読書感想文コンクールが予定通り実施できた。<br>・県立図書館へ行き、本を借り、集団読書を実施した。<br>・図書館イベントが成功した。<br>○図書委員会の特にイベント活動をさらに活性化させる。<br>○図書館を活用した授業をさらに増加させる。<br>○掲示板や情報コーナーのさらなる充実を図る。   | 60%         | B       | 51%            | C          |  |
|  | 保健部       | 健康管理の意識と能力の育成        | 生徒の健康状況の把握と教職員の生徒理解の促進             | 4.2  | 91% | 85%   | ○ | 4.2   | 86% | 78%   | ○ | 4.5  | 86% | 85%   | — | ・生徒の健康状況の把握と教職員の生徒理解への参加において高評価を得た。<br>・担任や学年会、SC等との情報共有が密に行えた。<br>・支援委員会や職員会議等で情報共有ができた。<br>・研修会を通して教職員の生徒理解の意識も向上した。<br>・保護者の欠席連絡入力には習慣化し、共有することができた。   | 88%         | A       | 83%            | A          |  |
|  | 1年学年部     | 諸活動への積極的参加           | 部活動、生徒会活動及び学校行事等への積極的な参加           | 4.1  | 85% | 65%   | ◎ | 4.1   | 85% | 81%   | — | 4.5  | 93% | 85%   | ○ | ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動などへの参加は全体としては例年並みであったが、友人やクラスメイトの姿勢に影響を受けやすい。<br>○粘り強くHR個人面談で色々な切り口から刺激を与えられるようにする。  | 88%         | A       | 77%            | A          |  |
|  |           | 進路志望の具体化             | 具体的な進路選択への支援と生徒面談、保護者面談及び進路検討会の実施  | 4.2  | 79% | /     | / | 4.2   | 84% | /     | / | 4.5  | 91% | /     | / | ・コース選択については1学期から、段階的に自ら考えを広げたり深めたりできるよう、総合探究の時間や個人面談、保護者面談、学年集会などを通して行うことができたが、コース・エリア制の根本を含め、全員が納得でき、覚悟を持って選択できるシステム作りのために一層の改善が望まれる。<br>○学校全体としての取り組みが必要。   | 85%         | A       | /              | /          |  |
|  | 2年学年部     | 諸活動への積極的参加           | 部活動、生徒会活動及び学校行事等への積極的な参加           | 4.2  | 97% | /     | / | 4.1   | 80% | /     | / | 4.5  | 87% | /     | / | ・部活動、生徒会活動及び学校行事等に対して、生徒たちは自主的にしっかりと関わって活動してくれたように感じる。高校時代しかできないことを搜して自分を高め、周囲と協力して物事を進めることの大切さを学ぶよい機会になっている。   | 88%         | A       | /              | /          |  |
|  |           | 進路志望の具体化             | 具体的な進路選択への支援と生徒面談、保護者面談及び進路検討会の実施  | 4.1  | 85% | 54%   | ◎ | 4.2   | 89% | 90%   | — | 4.4  | 84% | 94%   | △ | ・キャリア学習やオープンキャンパス参加を通じて、多くの生徒たちが自分の進路希望を次第に確定しつつある状況であるとらえている。<br>○学校全体での協力や家庭との連携を含め、今後も一人一人の進路を慎重に検討していく。   | 86%         | A       | 79%            | A          |  |
|  | 3年学年部     | 学校生活の充実              | 部活動、生徒会活動、ボランティア活動、及び学校行事等への積極的な参加 | 4.3  | 93% | 73%   | ◎ | 4.4   | 95% | 93%   | — | 4.8  | 95% | 93%   | — | ・多くの場面で、互いに支え合い最上級生として後輩を引っ張ることができた。また、その経験によって視野を広げるとともに、自分自身を見つめ直す機会にもなり、自己有用感を高めることに繋がった。  | 94%         | A       | 86%            | A          |  |
|  |           |                      | 個に応じた進路保障                          | 4.1  | 79% | 69%   | ◎ | 4.3   | 89% | 93%   | — | 4.7  | 98% | 92%   | ○ | ・キャリア教育部との連携のもと、多くの先生方の協力を経て、個々の生徒が目標に向かって努力し、進路実現に繋げることができた。   | 89%         | A       | 85%            | A          |  |

令和5年度 重点目標についての学校評価  
(内部評価及び外部関係者評価)

松江市立皆美が丘女子高等学校

| 重点目標                         | 分掌・学年会                   | 各部・学年会の重点目標                     | 内容                                 | 教員評価   |     | 昨年度比較 |     | 保護者評価 |     | 昨年度比較 |     | 生徒評価 |     | 昨年度比較 |   | 概評(○)と改善策(△)   | 肯定的評価の割合(%) | 総合評価(※) | 昨年度肯定的評価の割合(%) | 昨年度総合評価(※) | 学校関係者意見  |
|------------------------------|--------------------------|---------------------------------|------------------------------------|--|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|------|-----|-------|---|--|-------------|---------|----------------|------------|--|
|                              |                          |                                 |                                    | 4.4  | 96% | 65%   | ◎   | 4.1   | 73% | 72%   | —   | 4.1  | 66% | 56%   | ◎   |  |             |         |                |            |  |
| 3<br>ホスピタリティ精神とコミュニケーション力の向上 | 総務部                      | 広報活動の推進とPTA活動の充実                | 積極的な情報提供及びホームページの充実<br>円滑なPTA活動の推進 | 4.4  | 96% | 65%   | ◎   | 4.1   | 73% | 72%   | —   | 4.1  | 66% | 56%   | ◎   | ・教職員からは概ね高評価を得ている。<br>・掲載した内容について、他方面からも反応があり、学校の情報を幅広く周知できているものと認識している。<br>OPTA活動について<br>以前行っていた活動の中から、コロナ禍で実施可能な形で継続しているものや取りやめたものもある。<br>・コロナ禍は5類に移行したが、感染症や食中毒への配慮等、以前と全く同じような活動に戻すことが難しくなっている現状をご理解いただきながら、新しい形の活動をPTAの皆様と相談しながら模索していきたい。 | 78%         | A       | 64%            | B          | ・保護者に学校のことを問いかけてもわからないことが多いのではないかと。保護者に対する質問の仕方を考えて見ることも必要。<br>・保護者が学校に来て生徒の様子を見てもらう場面があると質問にも答えやすいと思う。<br>・HP等を利用した広報の活用で学校のアピールも必要。<br>・各種生徒指導の実践、身だしなみという面で、教員・保護者・生徒間で考え方にずれがある。化粧の感覚の違いや価値観のずれをどうしたらよいかを考えていかなければならないのではないかと。決して女子高だけの問題ではないと思っている。<br>・外に出た時や色々な人との出会いの中で学ぶことが大切。どのようなふるまいができるかは外での学習で大いに学べるのではないかと。<br>・安全面について、自分で自分の身を守ることも大切。例えば短いスカートをはいていれば犯罪に巻き込まれる等の意識を持ってほしい。 |
|                              | 教務部                      | 「まつえ学」の充実                       | 地域連携の充実と地域理解                       | 4.1  | 76% | /     | /   | 4.3   | 85% | /     | /   | 4.7  | 96% | /     | /   | ・学校設定科目として、今後ますます充実した授業内容になるように改善していく必要がある。<br>○コーディネーターを中心に、松江市役所の関係各所をはじめ、市内の事業所と連携しながら校外学習が実施する。  | 86%         | A       | /              | /          |  |
|                              | 生徒部                      | 基本的な生活習慣の定着                     | 各種の生徒指導の実践                         | 3.5  | 48% | 65%   | △   | 3.8   | 68% | 58%   | ◎   | 4.4  | 83% | 82%   | —   | ・生徒・みだしなみを中心に引き続き指導を行い、生徒の規範意識を育成する必要がある。<br>○生徒に対して様々な機会を捉えて、『生活の手引き』に記載されている本校のきまりを確認する場を持つ。<br>○生徒個々の状況等も考慮し、機を捉えて『生活の手引き』に即して全教職員が協力してみだしなみの指導にあたる。<br>○生徒部や生徒会主導で、生徒・教職員ともに本校のみだしなみを整えていこうという意識を醸成する働きかけを行う。                              | 66%         | B       | 68%            | B          |  |
|                              |                          | 明るく豊かで活発な生活態度の育成                | 社会的モラルの向上                          | 4.1  | 91% | 73%   | ◎   | 4.1   | 75% | 77%   | —   | 4.7  | 93% | 91%   | —   | ・さまざまな講演を設定し、広い視野の育成を目指した。<br>○学年部の意見を取り入れ、講演講師との打ち合わせを綿密に行うことで、生徒に対して必要な知識・姿勢を育成できる講演を設定する。   | 86%         | A       | 80%            | A          |  |
|                              |                          |                                 | 学校行事、部活動、生徒会活動への参加                 | 4.3  | 91% | 77%   | ◎   | 4.2   | 79% | 85%   | △   | 4.6  | 91% | 91%   | —   | ・生徒会執行部員・3年生を中心に学園祭等の行事に意欲的に取り組み、充実した活動を行った。各種活動を通して生徒自身の成長にも繋がった。執行部を中心とした生徒会活動は、本校の魅力の一つである。<br>○生徒部が中心となり、全教職員が協力して生徒自らがより主体的に活動するよう支援していく。   | 87%         | A       | 84%            | A          |  |
|                              | 人権尊重の支援                  | 望ましい人間関係の実現                     | 4.1                                | 82%  | /   | /     | 3.9 | 66%   | /   | /     | 4.6 | 89%  | /   | /     | ・相手の立場になって考える、その場その場でふさわしい振る舞いができることを目指した。<br>○学校行事や講演会等、全校生徒が集まる場や日々の指導を通して働きかけを行う。  | 79%  | A           | /       | /              |            |  |
|                              | ヒューマンライツ部                | 人権教育の計画的・組織的な取り組み               | 人権教育の実践                            | 4.1  | 91% | 81%   | ◎   | 4.0   | 66% | 66%   | —   | 4.6  | 91% | 87%   | —   | ・各学年会と連携した人権教育HRや人権に関わる講演会・研修会を計画通り実施することができた。<br>○生徒の実態を踏まえて課題の選定等について更に検討を行う。<br>○人権意識の向上について議論を深める。   | 83%         | A       | 78%            | A          |  |
|                              |                          |                                 | 各種奨学金の紹介                           | 4.4  | 91% | 73%   | ◎   | 4.1   | 79% | 83%   | —   | 4.4  | 81% | 76%   | ○   | ・様々な奨学金の通知案内や説明会及び奨学金申込出願が計画通り実施することができた。しかし、生徒の対応がすみやかでない状況も見られた。<br>○今後も、正確な対応や手続きを行う。<br>○分かりやすい通知案内を継続していく。  | 84%         | A       | 77%            | A          |  |
|                              | 保健部                      | 環境整備と美化                         | 清掃の充実と生活環境の美化・整備活動                 | 3.7  | 70% | 62%   | ○   | 3.8   | 64% | 58%   | ○   | 4.4  | 85% | 81%   | —   | ・清掃・美化活動について、概ね評価を得た。<br>・各清掃場所で、積極的に取り組む姿勢が見られた。<br>・ゴミの分別も習慣化し、なるべく出さない状況もある。<br>○一部の生徒で清掃や身の回りの整頓について十分な取り組みができていない生徒がいるので根気よく指導していきたい。   | 73%         | B       | 67%            | B          |  |
|                              |                          | 健康維持と感染予防の意識の高揚                 | たよりやホームページでの健康啓発と感染予防の徹底           | 4.0  | 76% | 81%   | △   | 4.0   | 77% | 74%   | —   | 4.3  | 78% | 78%   | —   | ・健康維持と感染予防に対する活動で高評価を得た。<br>・健康診断や健康観察、コロナ・インフルエンザ感染予防に対する諸活動を積極的に実施できた。<br>・保健委員による清掃時の音楽やトイレのポスター作成での啓発活動等実施できた。   | 77%         | A       | 78%            | A          |  |
| 国際科                          | 異文化理解と共に生きようとする態度の育成     | 地域や文化を理解する学習活動の展開・コミュニケーション力の育成 | 4.0                                | 74%  | 64% | ◎     | 4.2 | 86%   | 72% | ◎     | 4.7 | 92%  | 89% | —     | ・生徒は国際科の諸活動に比較的前向きに取り組んでいる様子が見られ、学校評価にも反映されているように思われる。<br>・「楽しかった」という感想に終わってしまい、そこから次の学びへとつながりづらい。<br>・国際科の方向性が十分に共有されているとは言えない。<br>○海外研修旅行も含め、学んだことを実際に使う機会を作る<br>○多くの先生方に関わってもらえる仕組みを作る                                 | 84%  | A           | 75%     | B              |            |  |
| 1年学年部                        | 基本的な生活習慣の確立              | 校則の遵守と自己理解を深める生徒の育成             | 3.9                                | 67%  | 60% | ○     | 4.2 | 84%   | 81% | —     | 4.5 | 91%  | 86% | ○     | ・校則を守る指導はふれずに行っているが、規範意識が向上しない生徒が一定数おり、また上の学年に倣う様子が伺え、客観的にみると徹底していたとは言えない。<br>・他者に対し想像力を欠いた自分本位の言動が多くみられ、人間関係のトラブルが多かった。その都度誠意を持って対応したが、一度起こってしまった人間関係を修復するのが極めて困難であった。<br>○引き続き、よく話を聞くこと、そして学校としてのスタンスに一貫性を持たせることが大事である。 | 81%  | A           | 76%     | A              |            |  |
| 2年学年部                        | 基本的な生活習慣の育成              | 校則の遵守と規則正しい生活リズムの育成             | 3.6                                | 58%  | 54% | —     | 4.0 | 75%   | 72% | —     | 4.5 | 89%  | 88% | —     | ・クラスによってはあるが遅刻欠席早退が数多い。体調不良である以上仕方のない部分もあるが、コロナ時期の弊害なのか「自分に無理をせず休む」という風潮が抜けきっていない。<br>・服装等のマナーにおいて、まだまだ自分勝手な基準で判断している生徒がいる。<br>○日々の指導が通らない場面も出てきている(特に服装)ので、生徒部との協力をはじめ、学校としてどうやっていくかを研究せねばならない。                          | 74%  | B           | 71%     | B              |            |  |
| 3年学年部                        | ホスピタリティ精神とコミュニケーション能力の育成 | 基本的な生活習慣の確立と人権感覚の向上             | 3.5                                | 64%  | 73% | ◎     | 4.2 | 86%   | 80% | ○     | 4.7 | 97%  | 93% | —     | ・学校や社会のルールを守ろうとする態度を身につけており、個々で見るときちんとしようとする姿勢がみられる。一方で、少くならいいだろうと考えることや、見えない他者に思いをはせる想像力に欠ける生徒もおり、今後指導に工夫が必要である。<br>・地域貢献活動での他者に喜ばれる経験が、他者を思いやる心を育て、社会貢献への意識を高めることに繋がった。   | 82%  | A           | 82%     | A              |            |  |
| 総合評価                         |                          |                                 |                                    | 10ポイント以上上昇・・・◎<br>5ポイント以上上昇・・・○<br>5ポイント以上下降・・・△ |     |       |     |       |     |       |     |      |     |       |   | 81%  | A           | 75%     | A              |            |  |

【総合評価】 肯定的評価の割合 A・・・良い(75%～) B・・・概ね良い(60%～74%) C・・・あまり良くない(40%～59%) D・・・良くない(～39%)

※【教員・生徒・保護者の評価】  
5・・・できた・良かった 4・・・ほぼできた・ほぼ良かった  
3・・・あまりできなかった・あまり良くなかった 2・・・できなかった・良くなかった  
1・・・わからない・答えられない